学籍番号

氏名

立論 A に対して B が批判として不適切である点を指摘せよ。

立論 A 「美人コンテストとは女性の外見に序列を与え、さらにはそれを商品化さえするものにほかならない。しかもそれはしばしば男性の観点から女性を選別する品評会となっている。このような女性差別を助長するコンテストは廃止すべきである」

批判 B 「女性差別が美人コンテストを生み出すというのはナンセンスである。たとえば江戸時代には美人コンテストなどはなかった。しかし、その男尊女卑意識は言うまでもなく現代よりもはるかに強かったのである。」

解答例

立論 A は「美人コンテストは女性差別を助長する」（「美人コンテストが存在する → 女性差別がひどくなる」）と主張しているのにもかかわらず、批判 B はその逆である「女性差別が美人コンテストを生み出す」（「女性差別がひどい → 美人コンテストが存在する」）という主張に反論をしていて不適切である。

注意 .

この問題には註が付いていて原文の議論が紹介されている（註の(123)）。註の最後に「これで疲れていては世の中渡っていけないのだ」と書かれている通り、引用されている議論は論理的にも常識的にもブツ飛んだものであることに注意すること。（以前にこの議論を鵜呑みにしてしまった学生がいたので。）